連載 第5回　福利厚生で良い会社が分かる！

ハタラクエール2020

優良福利厚生法人（地域法人）受賞

平成医療福祉グループ

～職員が心から安心して働き，楽しめる福利厚生～

平成医療福祉グループ（以下「同グループ」）は，優良福利厚生法人の地域法人部門賞に選ばれ，表彰された。同グループ人事部大沼恭平さんにお話を伺った。

同グループは，1984年に徳島で慢性期治療を行う博愛記念病院から始まった。強力なリハビリテーションと的確な治療により在宅復帰を目指し，病院，高齢者福祉施設，障害者福祉施設を運営している。

福利厚生表彰・認証制度の審査においては，特に図表5の評価軸の①経営課題への対応が高く評価された。

福利厚生の実施目的，経営者・担当者の思い

同グループでは，誰もが同じように温かい医療・手厚い介護を受けられる，今よりもっと安心して子育てをし，年をとれる社会になることを切に望んでいる。

職員に対しても同様で，一人ひとりの生活環境・業務環境が福利厚生制度によってより良いものになることを期待している。

心身の健康を重視した福利厚生制度

医療・福祉事業を展開する同グループでは，職員が長く快適に働けるよう，福利厚生制度が提供されている。

職員食堂　職員の健康管理を「食」からもサポートするために，各施設には職員食堂が設けられている。患者の体力回復と食事の楽しみの観点から栄養管理には力を入れており，食堂では各施設で患者向けに調理された食事と同じメニューが職員にも提供されている。

それぞれの施設に設置されている事業所内託児所でも同じメニューが提供されているという。

提供される食事については，栄養部の主催で，年1回各病院・施設がレシピを競うコンクールが行われている。例えば「世界のレシピ」というよ

平成医療福祉グループ概要（2020年3月末現在）

業　　種　その他非製造業
事業概要　医療，高齢者福祉事業，障害者福祉事業
従業員属性別数　正規従業員　8,113人
非正規従業員　1万1,397人
非正規社員の割合　58.4％
男 女 比　42:58
平均勤続年数（正規従業員）　5.1年
平均年齢　38.5歳
多い職種　看護師（3,123人）

図表5　ハタラクエールの審査6項目で高評価だった項目

評価軸	評価内容
①経営課題への対応	自法人の人事・労務上の課題をどれだけ把握しており，その課題に対して福利厚生の活用でどれだけ対応しているか

図表6　主な福利厚生制度

福利厚生の領域	実施している施策
住宅	社宅・寮
医療・健康	予防接種，法定外健診，スポーツ施設・フィットネス施設等
両立支援	事業所内託児所，病気治療の支援
生活支援	福利厚生パッケージ注，慶弔関連給付，レジャー・旅行，宿泊・保養施設
資産形成	資産形成支援制度
自己啓発	外部セミナー・研修会，資格取得支援
社内コミュニケーション	社内イベント・懇親会，社員旅行
その他	特別休暇の付与（慶弔・私傷病の療養）

注　福利厚生パッケージを採用している法人については，パッケージ中で提供されているサービスを他の福利厚生制度として掲載している場合がある

うなテーマが毎年設定され，見た目，栄養，季節感などから，経営層や職員が審査をする。受賞したレシピは食堂のメニューにも組み込まれるという。このように，同グループでは，栄養とコミュニケーションの道具としての「食」事に力を入れ，患者と職員の健康増進を図っている。

リフレッシュの機会　心の健康への対応も欠かせない。同グループでは，慰安旅行や忘年会で，毎日の業務から離れ職員がリフレッシュできる機会を提供している。慰安旅行については，関東エリア，関西エリア，山口の3エリアの病院・施設で旅行プランを作成している。2泊3日の温泉旅行のほか，テーマパーク，観劇，豪華な食事から滝修行などの日帰り旅行まで様々だ。

旅行後にはアンケートで満足度を調査，翌年に活かしている。これまでの旅行への参加率は6割以上，参加できなかった人にはお土産を渡すという。

同グループがここまで力を入れる目的は，職員の心身のリフレッシュのほか，普段は別々の病院・施設で働いている職員同士の横のつながりをつくるコミュニケーションの機会になるからだという。

グループ内健診センターで健診　グループ内病院に複数の健診センターを保有しており，人間ドックや専門ドック等の法定外健診を職員が利用する場合の補助制度を設けている。受診者は年々増えているという。

多様な職員が活躍可能な環境づくり

高齢化で，医療・福祉サービスへの需要がますます高まる中で，同グループでは，様々な職員の活躍を，福利厚生制度で支援している。

女性　育児休暇制度の取得はもちろん，育児休暇から復帰の際にも安心して働き続けられるよう，小学生卒業まで育児時短勤務制度の利用を可能とし，各病院内に設置された事業所内託児所を無料で利用できる。院内託児所では1歳から3歳までの乳幼児の預かりが可能で，子どもの調子が悪くなった場合には，すぐそばに看護師や医師もいるという安心感のある環境だ。院内託児所があるからという理由で就職する人もおり，同グループの魅力の一つになっている。

外国人労働者　同グループでは，EPA（経済連携協定）で，インドネシア・フィリピン・ベトナムから20年9月現在で184名の看護師候補者，介護福祉士候補者を受け入れているほか，28名の技能実習生も受け入れている。彼らに対しては，安価な寮費や3度の食事に病院の食堂を利用できるなど，手厚く生活面をサポートしている。

慰安旅行を含めた行事には無償で参加できる。

文化や宗教の違いなどに理解をもって接し，働きやすい環境づくりに努めることにより，視野が広がり，彼らのホスピタリティを学ぶことが受け入れ現場にもポジティブに作用している。

図表7　従業員の「食」を支援する職員食堂

図表8　施設単位で毎年レシピコンクールを開催

図表9　外国人労働者に手厚い支援を実施

今後の課題，取り組みについて

大沼さんは，「今年度は実行できない福利厚生のイベントが多い。これまで中止になってしまったことをどのように変えていくかが課題です」と話す。今後は，部活動も企画したいという。100以上の施設，約2万人の職員がいるため，共通の趣味を持つ相手も多いと考えられ，同じグループの職員であり「互いの仕事状況の把握」や「連絡がとりやすい」制度を検討したいとしている。

「施設が全国にまたがる当グループでは，なかなか職員と直接顔を合わせることがありません。だからこそ，アンケートでは本音を書いてくれると思っています。その中で，感謝のコメントをいただけると大変うれしいです」と大沼さん。

職員が安心して働けるような，楽しめるような，あるいは満足してもらえるような福利厚生を実施したいという熱い思いが感じられた。